

ちらつく安倍氏の影

写真は毎日9日朝刊「五輪記者 内幕リポート」から。東京五輪と政治を考えるうえで興味深いので抜粋して紹介しよう。

東京オリンピックの開会式に招待される筆頭格はこれの方だろう。人気キャラクターのマリオに扮し、次期開催地をアピールした安倍晋三前首相。新型コロナウイルスの影響で、大会を1年延期にする主導権を握った。首相を退いた今も、その影がちらつく。



「歴史認識などで一部から反日的ではないかと批判されている人たちが、今回の開催に強く反対している」。販売中の月刊誌「Hanada」で、安倍氏は中止論を掲げる野党などを批判した。五輪は大規模会場や夜間に実施する一部競技のみ無観客とする案が検討された経緯を見ると、少しでも観客を入れて開催したいという大会関係者の思いがにじみ出る。その理由について、「安倍氏が有観客にこだわっているからだ」との声も漏れ伝わる。安倍氏の五輪への執念は強い。

「1年延期まで言うとは思わなかった」。昨年3月24日に当時首相だった安倍氏がIOCのバッハ会長との電話協議で大会延期を決定した翌日、組織委幹部はそう言って驚いた。関係者によると、協議の直前に組織委の森喜朗会長（当時）が「2年延期案」もあることを安倍氏に伝えたものの、安倍氏は1年延期にこだわったというのだ。

先の組織委幹部は安倍氏が1年延期にこだわる理由をこう推測した。「北朝鮮（との拉致問題解決）も日露（平和条約締結）も憲法（改正）もうまくいかない。首相としては、自分の手柄になるのはもう五輪ぐらいしかない。自分の任期中にやりたいんだろう」

安倍氏は大会招致から一貫して、節目で前面に立ってきた。13年9月の招致演説で東京電力福島第1原発事故の影響について、「アンダーコントロール」と訴え、16年リオデジャネイロ五輪の五輪旗引き継ぎ式ではマリオに扮して登場した。昨年9月、持病により任期途中で志半ばで首相を退いたが、功績を買われて11月には「オリンピック・オーダー（五輪功労章）」の金賞をバッハ会長から授与された。

1年延期が決まった際、森氏が周辺に漏らした言葉が喉の奥にとげのように引っかかっている。「(安倍)首相は賭けに出た。うまくいけば良いが……」

「内幕レポート」を読んで、いろいろ考えさせられることが多かった。安倍氏が月刊誌で「反日的な人が五輪反対」と発言したことが、ネットでも評判になり投稿したことがある。私もその一人だが、こんなに「反日的な人」が多いとは驚くばかりだ。安倍氏が1年延期と強く主張したのは、結局は五輪を「自分の手柄」にしたかったのだ。モリカケ・桜などと、東京五輪も同じ構図ではないのか。五輪騒動の安倍氏の責任は大きい。

(2021年7月10日)